

LMS を用いた遠隔講義におけるコミュニケーション促進手段の提案

1130359 徳久 貴之 【植田研究室】

1 はじめに

近年、ICT(情報通信技術)の発展により大学などの高等教育機関で ICT を教育に活用するようになり、遠隔講義の普及も進んでいる [1]。しかし、現在の遠隔講義には講師と学生のコミュニケーションが容易でないという問題がある。それを解決するために、本研究では、LMS を用いた遠隔講義におけるコミュニケーション促進手段を提案する。

2 遠隔講義におけるコミュニケーション

遠隔講義では、恥ずかしさのために学生が講義中に質問をすることが困難である、講師と学生の対話が困難である、対面講義と比べて学生の様子が伝わりにくいなどの問題がある。現在の遠隔講義においては、講師と学生間のコミュニケーション手段として、チャットシステムや電子掲示板などのインターネットコミュニティを活用している [2]。しかし、講師が用意したチャットシステムや電子掲示板は敷居が高く利用しにくいなどの問題もある。これらの問題を解消するために学生が利用しやすいインターネットコミュニティを備えている LMS やブログ、SNS をコミュニケーション手段として利用するのも一つの解決法であると考えられる。

3 提案手法

通常の遠隔講義では教室全体を映しているため、学生一人一人の様子が分かりにくく学生との対話が困難であった。また、遠隔講義中では学生が質問や発言を恥ずかしさのためにしにくいという問題があった。本研究では、Web 会議システム、チャットや掲示板の機能を備えた LMS を利用した遠隔講義を行い、遠隔講義におけるコミュニケーションの問題を解決するための手法を提案する。この手法により講師が学生の様子を見ることができ、学生との対話が可能で学生は質問や発言を容易にすることができる。今までの LMS は遠隔講義のサポートとして利用されてきたが、本研究では LMS をコミュニケーションツールとして遠隔講義内で利用することを前提とする。本研究の評価は、質問のしやすさ、学生の様子が伝わるかなどいくつかのアンケートを用意し評価する。

4 実験方法、結果

本実験では LMS としてオープンソースの Moodle を利用して遠隔講義を行う。講義は、Moodle とテレビ会議システムを連携させ、会話にはヘッドセットを利用する。被験者は講師と学生に分かれ、講師は Web カメラを通して学生を確認ことができ、学生は講師だけが見えるようにする。講師は、チャットとテレビ会議を併

用して講義を進めていき、学生は質問がある場合チャットもしくはマイクで質問をする。図 1 は実際に Moodle のプラグインを用いて実験を行っている講師側の様子である。

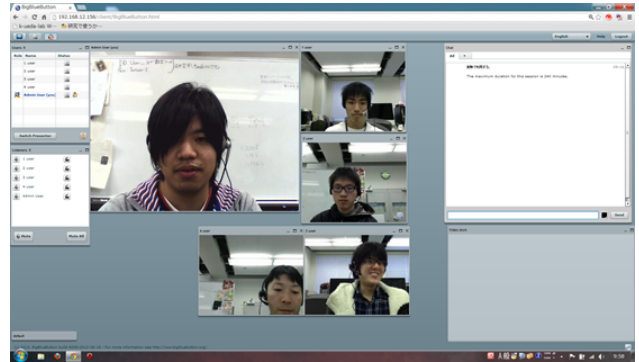


図 1 プラグインを用いたテレビ会議

LMS を用いた遠隔講義の評価としては、質問や発言が容易な人はマイクを使い、質問や発言が苦手な人は、講師とプライベートチャットを利用することで匿名での質問や発言ができ質問や発言が容易になった。さらに、講師側は学生全員の顔が確認できるため、学生の様子が伝達されやすくなった。また、テレビ会議システムの操作性について出された意見については今後検討する必要がある。

5 まとめ

ICT の発展により遠隔講義も普及されたが、講師と学生のコミュニケーションが容易でないという問題も発生した。そこで本研究では、LMS を利用した遠隔講義を提案し、提案手法に基づいた実験を行い、アンケート調査を行った。アンケートの結果、提案手法を用いることで質問や発言が容易になり、講師も学生の様子が感じやすくなったことが分かった。本研究の提案手法は遠隔講義におけるコミュニケーション促進手段に有効であるという結果が得られた。

参考文献

- [1] 放送大学学園, “平成 21 年度・22 年度先導的大学改革推進委託事業「ICT 活用教育の推進に関する調査研究」委託業務成果報告書”, Mar. 2011.
- [2] 中澤 真, 後藤 正幸, “遠隔講義における双方向コミュニケーションについての課題とその解決に向けて”, 会津大学短期大学部研究年報 63 号, p.99-112, Nov. 2006.